

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下 隆

山名	熊野古道⑤ 中辺路				山行名	例会		
ル-ト	滝尻・・近露・・宿―野中の清水・・熊野本宮―宿―熊野川下り―新宮市							
山行日	2013.4.21～4.23(日、月、火)				天候	晴・晴・晴		
参加者	リーダー；山下 サブリーダー；石田 男性 14 名；秋月、岡部、片山、金本、倉光、佐々木、園上、坪田、中広、宮野、守口、遊佐 女性 11 名；上杉、江平、樺山、倉光、河野、西上、浜北、姫島、藤富、山田、頼 合計 2 5 名 							

2006 年秋に熊野古道を計画して以来、5 回目の熊野古道となった。昨年同様に天気に恵まれ、新緑の中でのすがすがしいトレッキングが出来た。初回は秋に計画したが、熊野地域は植林が多いので、紅葉を愛でるには不適切だし、2 回目以降は日も長く、歩きやすい新緑の季節とした。又、熊野古道に関心をしめしてくれる会員はサンデー毎日の方がほとんどだったので、日曜日に帰るといつも渋滞に巻き込まれるので、今回は火曜日に帰る計画としたのは成功だった。今回の参加者の平均年齢 69.6 才で、新入会の江平さんを除くと、平均年齢は丁度 70 才となり、古希の祝いの熊野古道歩きとなり、健康の有難さを噛みしめつつ、大地を踏みしめることが出来た。

今までの山下企画での熊野古道(いいところ取り)例会(2泊3日)

NO	時 期	コース	天 気	参加者数	歩行距離
1	2006.11	中辺路。小雲・大雲超。請川～那智。	曇/雨/曇	20 名	22km
2	2009.4.17～	伊勢路。尾鷲馬越～花の窟。	曇/晴/晴	22 名	26km
3	2011.4.29～	小辺路。大股～熊野本宮。	晴/晴/曇・雨	28 名	39km
4	2012.4.27～	大辺路。紀伊富田～那智	3 日間晴	27 名	39km
5	2013.4.21～	中辺路。滝尻～熊野本宮	3 日間晴	25 名	33km

昨年の計画(No4)時点では H11 年秋の台風で、熊野地区は大変な被害を受けていたので、山の情報を地元の役場や観光協会からの情報入手に念を入れ、ルート設定した。その時すでに、中辺路ルートは修復されたと聞いていたので安心してた。ところが2日目、現地を歩くまで迂回ルートがあるのを見落とすミスをしてしまった。初めに入手したパンレットの地図を頼りにスケジュール等を計画した。その後、参加者数に応じたパンフレットを再入手した。同じ表紙のパンフなので中身は同じと思っていた。ところが、最初のパンフには迂回路のことは書いて無く、SL・班長さんに渡した後のパンフには迂回路が書いてあった。山の計画を立てる時は念には念を入れるべきとの反省だ。初日と3日目はほぼ計画通りに出来たが、2日目はこの迂回路のために時間が掛ったのと、宿出発の時の鍵トラブル遅れとが重なり、宿着は計画よりも約 1:20 分遅れ、19:05 着となる。宿の都合もあり、食事後に風呂となり、皆さんにご迷惑を掛けてしまった。遅れたおかげで、熊野本宮では我らの貸切り

で、厳粛なたたずまいを味わうことが出来た。

バスの中での最初の発声は今月の標語である「基本を学ぶ」ということで「班バラケゼロ」「分かれ道 振り向く視野に 仲間見る」「山側極楽 谷側地獄」を紹介した。今回の熊野古道は普段の例会登山よりは危険は少ないが、よそ見をすれば いつでも危険は待っているので 気をゆるめることなく歩く事を希望した。熊の古道4回の内、道間違い1回、怪我2回（保険使用1回）、滑落1回、車事故1回 と結構ヒヤリを経験してきた。熊野古道特有の石段で尻もちをついて、翌日の歩きを棒にしたこともあった。

今回もいつものようにそれぞれに役割分担を持っていた。SL、遊軍・安全、女性班長3人、会計、記録係り、共通救急箱、ロープ、地図・GPS、写真、語り部、荷物上・下、宿の鍵、弁当注文、忘れ物チェック、共通お菓子、ビール販売 と。皆さんの協力で3日間、無事故でヒヤリハットもなく

楽しい旅を楽しむことが出来た。

現地までの車中は長いので、自前の「語り部さん」の熊野の話の後、ロープワーク研修を実施した。自分の身も仲間の身もいつなんどき「ロープ」が必要な場面に出くわすかわからない。先般、六甲の地獄谷例会ではロープワークでルートを確認する出来事があったばかりだった。車中でそう簡単に身に付けることは無理なので、自宅で練習できるように、テキストと練習用ロープをお土産にした。

3日間とも快晴に恵まれ、新緑の中を歩いて、申し分のない熊野古道完結編となった。



（初日）皆さん元気で 今日の終点 近露の村に着く

初日；予定通り出発地点の滝尻に着く。予報では午後に雨が上がるはずが、滝尻に着く前に青空がひろがり、歓喜の声。熊野古道館で簡単な説明を受ける。日曜日なのに他の訪問者はほとんどいない。登山口から急登があり、すぐ乳岩の胎内くぐりを全員通過。出口は狭く、身をよじらせながらやっと脱出。そのあとは感想・歓喜の声でにぎやかなこと！小鳥の声もかき消された。低気圧の移動直後で風は強い。丁度、風の無い広場を見つけ、昼食休憩とした。道中は番号札がたっていて道標と共に、道迷いは防げた。高原熊野神社あたりから語り部案内付きのツアー団体と重なり合う。SL が作成したガイドには赤字でトイレ場所が記入されていたが、残念ながら、閉鎖トイレがほとんどだった。

2日目；滝尻にある「霧の郷 たかはら」で鍵がそろわず、朝の出発が 20 分強遅れ、忘れ物係りは大奮闘だった！ 野中の一本杉バス停で下車し、歩き始めた。もう少し車は入れたのは残念。宿・新緑・コースもほとんど貸切状態。今日は 20km 強の上り下がりのあるコースで、気合が入る。昨日同様に標高差は 620mあり、結構ハードだ。特に迂回路の登りはきつかった。約 13km 地点（発心門王子）の地点で疲れた人もあり、本宮で待つ運転手さんに連絡し伏拝王子まで迎えをたのみ、そこまでの約 1h 全員頑張る。7人の方がエスケープ乗車し、残りの方々は最後まで歩き、予定より 1:20 分おくれて、夕闇せまる熊野本宮に着く。疲れた足で、裏の森から熊野本宮の境内に入ると、いにしえ人の気持ちに少し近づいた気分となる。

3日目：7年前にお世話になった「小口自然の家」を舟の関係でゆっくりの 9:00 出発。熟睡して2日間の疲れが取れた。楽しみにしていた 1:30 分間の熊野川の舟下りだ。その上、キャンペーン期間中ゆえ、個人で乗ると 3900 円だか、今回は 2000 円と安い。川はいつもよりは澄んだ流れだ。全員、橙色のライフジャケットをつける。舟乗り場にある無数のこいのぼりに心は高揚する。両岸は2年前の大風のツメ跡が方々に残る。

舟下り途中、突然、空に7色の彩雲があらわれ、熊野権現のご降臨かと思う。速玉大社で神主様のお話を聞いたあと、初回に訪ねた神倉神社に寄る。日本の自然信仰の発祥地ではないだろうか？ 荒々しい手作りの石段を慎重に降りる。最後に雲取温泉に入り、本宮―十津川―五条経由で京田辺には予定より早く帰れた。費用は約 2.7 万円弱でした。

・ヒヤリハット：ありませんでした。

※ 旅行中の写真は、S Lを務めていただいた石田さんのブログや岡部さんの写真集を
拝見して下さい。

<http://yamatomolily.blog102.fc2>

<http://sanpo8.digi2.jp/kumanokodou/kuma.html#0610>

皆さんのご協力が無事に楽しい旅が出来、ありがとうございました。

熊野中辺路古道の感激を詩歌に

熊野古道を歩く

王子社を巡る古道は^{けんそ}陰阻にて いにしへの旅は いかにかとぞ思う (佐々木英夫)

熊野路は 天の差配か 清々し 千年の路 苔の石畳 (中広正典)

風そよぐ 熊野古道は 静かなり 若葉の薫り 鳥のさえずり (中広正典)

天気良し 新緑生える 熊野路に たっぷり浸る いにしえロマン (中広正典)

蛙鳴き 鳥がさえずる 熊野路に 時空を超えて 思いは走る (中広正典)

熊野路を 一步一步踏みしめて 古希が往く 目は新緑に そして深呼吸 (中広正典)

中辺路の 息もたえだえ 峠超え (山下 隆)

新緑の モザイク模様 山桜 (山下 隆)

山降りて 二た味違う 第三ビール (山下 隆)

三山巡拝 上皇さんは33回 1回だけでは 極楽遠し (石田輝夫)

中辺路を 極楽目指して 7万歩 (石田輝夫)

ようヤッタ 上り下りの4万歩 ほめたたえたる 古希コキ仲間 (山下 隆)

熊野古道 おしゃべり楽しい 乙女らに 負けじと鶯 ホーホケキョ (浜北紀子)

男ざかりと女ざかり 遊び盛りの二十五名が (倉光展子)

若葉の盛りに 聖なる盛りの熊野詣

六万歩の行脚は 元気ざかり

二時間の船下りは 風流ざかり

おかげで“聖”純盛り 幸福盛りなり

先達のすげ笠に続く 24名 修行の山友 熊野道行く (佐々木英夫)

先達は 古道を導くこと 五たび たくましき増す 菅笠の君 (倉光正巳)



熊野川を見て

大峰の 流れを集め 山峡を 刻みて大河の熊野川 (佐々木英夫)

熊野川 見る影もなく荒れ果てて こぞに帰するは 幾年月ぞ (佐々木英夫)

豪雨禍に 山肌削られ現れし 名もなし滝に驚愕す (佐々木英夫)



川くだりの舟に乗って

山峡を 下る舳先に波しぶき
 若葉に香る 舟路は楽し (佐々木英夫)
 天空に 奇しき彩雲現われて
 さては権現 降臨^{くだり}て来しか (佐々木英夫)
 いにしえに 心はせたる その一瞬
 あおぐ彼方に 権現様の虹姿 (山下 隆)
 悠久の 熊野の流れに 身を任せ
 語り部の笛の音は 川面に広がる (上杉郁子)
 悠久の 森に抱かれ 熊野川
 迎える虹に 小難祈る (江平愛子)

いにしえの 上皇たちが下りしの 同じ舟路を 我らも下りし (佐々木英夫)
 そよ風に 流れ多くて 舟下り (宮野叔介)
 山峡の若葉眼にしむ 舟路かな (浜北紀子)
 淀みにて舟を泊めて笛を吹く みやびの世界に誘^{いざな}うごとく (佐々木英夫)
 淀みにて 川面に響く 竹笛は 昔も今も 「感謝の祈り」 (山下 隆)
 キャンペーンで 浮いた舟代 ドコドコへ 酒や土産の春祭り (山下 隆)
 舟下り 対面の 語り部さんは イケメンよ (石田輝夫)

神倉山にて (小口自然の家で調達したおにぎり弁当「目はりにぎり」をほおぼる)

目はり寿司 神倉山も 笑ったよ 昔大口 今は小口 (山下 隆)
 新緑の 神倉山の 目はり寿司 昔大口 今小口 (山下 隆)
 神倉山 開けてビックリ 目はり寿司 昔大口 今小口 (山下 隆)

(中広正典)

歌など読んだ事も無いのに参加者全員の主題となれば致し方無し。思い、感じたままに歌らしきものにしてみました(評価は無用に願いたい)。

歌は別にして、緻密な計画の下、素晴らしい好天に恵まれた、楽しく元気っぱいの三日間でした。CL、SL、そして同行の皆さん、有難う御座いました。

ただ私として残念なのは、この企画が一応の完結を見る中で小辺路ルートを未だ歩けていないと云うことです。



(最終日) 自然信仰原点の神倉山にて

熊野古道中辺路ハチャメチャ吟行

2013.4.21~23

読み人知らず、記録係：倉光正己

- *「語り部」と呼ばれ恥じ入る 春の宵 (註：山行役割分担)
- *後白河には 及びもないが せめてなりたや 後鳥羽院 (熊野古道6ルート参加)
- *濃きみどり うすき緑の 山の道
- *いとけなき 牛馬童子に ならびたる 役行者も 可愛いかりけり
- *水満ため 棚田に蛙の声繁し 彼の世界でも 婚活盛ん
- *胎内窟 狭き出口を 這い出でぬ 新しき人生 歩みたしと思う
- *紫に 藤をまとえる 杉木立
- *山村の 豊かに見ゆる たたずまい その厳しさを 知る由もなし
- *「おみやげに 那智黒」という 立て看板 熊野古道も 商い厳し
- *熊野古道 近代道路と 振れゆく 時折聞こゆ 俗界の音
- *トンネルは 便利なれども 「峠越す」とう 言葉消し去る
- *「花畑に入れば百円貰う」との立看板 なからましかばと 覚えしか (徒然草借用)
- *近露や 向こう岸だけ 暮れ残る
- *近露を 遠く感じる 老いの春
- *虎杖(イタドリ)に ワラビゼンマイ クサギまで 山菜の夜 高原の宿(以上1日目)
- *恐るべし 小広のトイレ 「使用禁止・中に入れば出られません」
- *スギ林 抜けて新緑 広葉樹
- *石畳 もったいないが 滑りやすい (草鞋に限る)
- *石畳 へっぴり腰の 行者かな (自己描写)
- *山路来て サクラ スミレに散りかかる
- *上れば下り 下れば上る 世の習い 熊野古道は 人生に似て
- *峠下り 名残の桜に 出会いけり
- *山上る人山下さん 川辺を歩む岡部さん
春の月見る秋月さん (ダジャレだけ)
- *涼風も 峠越ゆるを 好むらし
登りの汗を 峠で散らす
- *迂回路と 呼ぶには長き 山路4キロ
- *三越峠を 一気に 一越えす
- *遠近(おちこち)に 山崩れ見ゆ 熊野道
- *ざっくりと 子供がシャベルで 切り崩す
砂山の如 杉山崩る
- *発心門 何の発心もせず 過ぎにけり
(ハンセイ!)
- *伏拝(ふしおがみ) 名にし負えば 遥拝す
- *走れメロス 日没とともに 本宮に
- *黄昏に ようやく着きたる本宮は 人影もなし ありがたきかな (以上2日目)
- *熊野川 船べりたたく 大波は 割れて砕けて 裂けて散るかも (実朝拝借)
- *七色の 虹色の雲 立ち昇る 速玉大社の その山の上 (熊野権現さま出現か)
- *熊野川 船下りする 水澄みて 深く泳ぐや 鯉のぼり (河岸に鯉幟、童謡借用)
- *先達は 古道導くこと 五たび たくましさ増す 菅笠の君 (わがリーダーを称えて) [オワリ]

